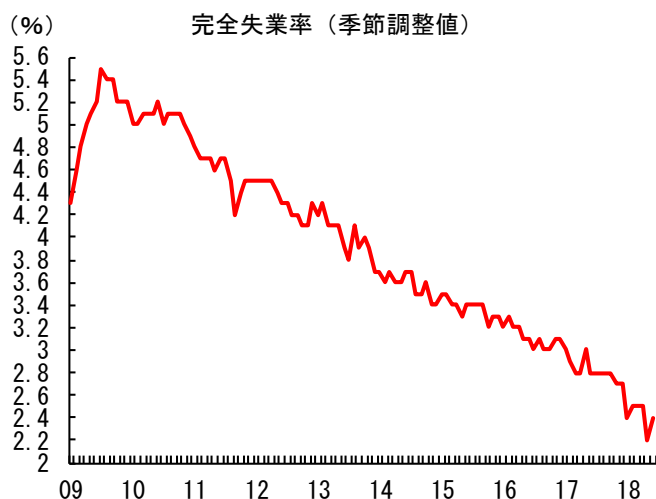


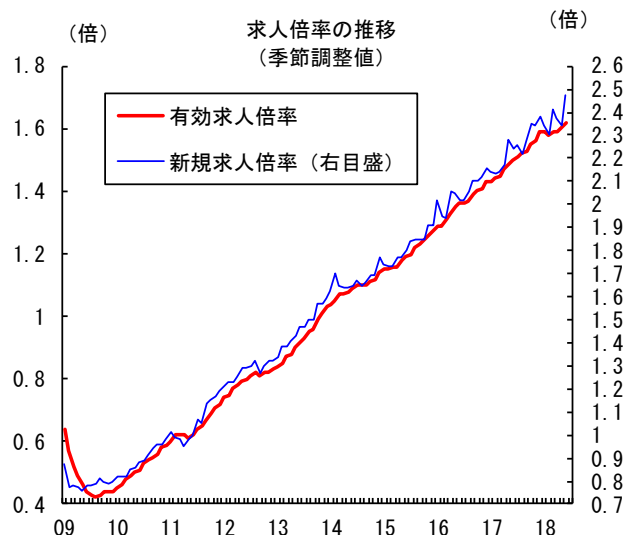
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2018年6月） 発表日：2018年7月31日（火）
 ～失業率は上昇も、前月の急低下の反動。雇用情勢は引き続き良好～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は上昇も、前月の急低下の反動

総務省から発表された2018年6月の完全失業率は2.4%と、前月から0.2ポイントの上昇となった（市場予想：2.3%）。悪化とはいえ、これは5月に急低下（4月：2.5% → 5月：2.2%）した分の一部を戻したに過ぎない。2.4%という水準自体は非常に低く、労働需給が逼迫している状況に変わりはない。

また、季節調整済みの就業者数は前月差▲41万人（5月▲20万人）、雇用者数も前月差▲24万人（5月▲20万人）と、それぞれ2ヶ月連続で比較的大きな減少となっているが、就業者数は1月から3月の累計で+141万人、雇用者数は1月から4月の累計で+121万人と、年初来、異常なペースで増加していたことを考えると、多少のスピード調整がある方がむしろ自然だろう。均してみると、就業者数、雇用者数は明確な増加傾向にあり、雇用情勢が極めて良好であることは疑いない。

○ 正社員の求人倍率が過去最高を更新

厚生労働省から公表された18年6月の有効求人倍率は1.62倍と前月から0.02ポイントの改善、新規求人倍率も2.47倍と前月から0.13ポイントの改善となった。引き続きかなりの高水準にあり、労働需給が引き締まっていることが示されている。また、正社員の有効求人倍率も1.13倍と前月から0.03ポイント上昇、正社員の新規求人倍率も1.67倍と前月から0.05ポイント上昇となった。ともに2004年11月の集計開始以来の過去最高水準を更新しており、正社員の労働需給も速いペースで改善していることが確認できる。

また、有効求人数は前月比+0.6%（5月+1.1%）と3ヶ月連続で増加、新規求人数は前月比+2.1%（5月▲2.8%）と2ヶ月ぶりの増加となった。求人数の増加は良いニュースだが、新規求人数については気になる点もある。4-6月期の新規求人数は前期比+2.1%と増加しているものの、1-3月期に前期比▲2.9%と落ち込んだ分は取り戻せていない。均してみれば増加基調という判断で良いと思われるが、増勢はやや弱ま

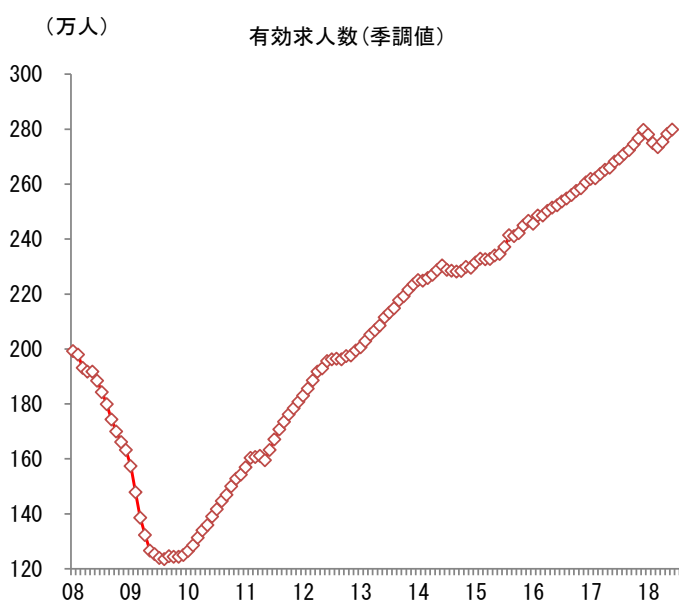
っているようにも見える（前年比でみても6月は+0.2%と、5月の+5.5%から鈍化）。前述のとおり雇用者数は現在非常に好調な推移を続けているが、新規求人数は先行指標だけに気にかかる。今後の動向に注意しておきたい。



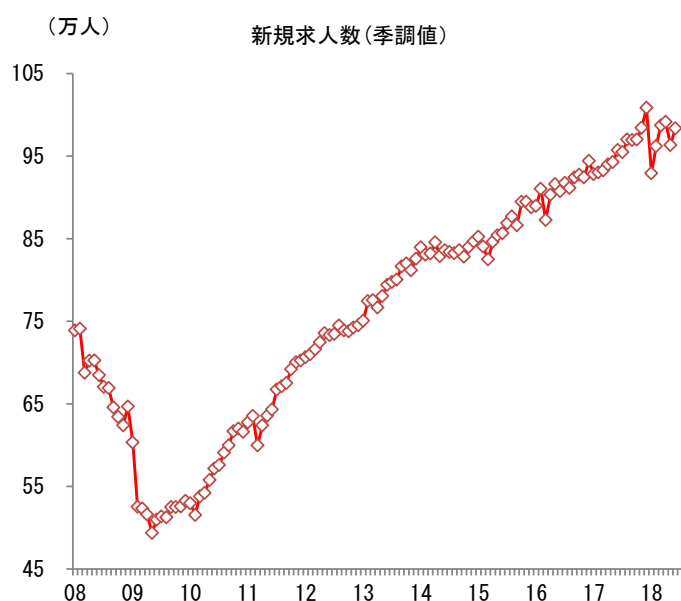
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」